

学会記事

I. 運営委員会報告

2007年10月6日に岡山理科大学において開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 2006年度収支決算(案)について審議した。
2. 2007年度収支予算(案)について審議した。
3. 植生学会会則の第10条第4項および第5項の改定(案)について審議した。
4. 編集委員会による植生学会誌の「投稿規定」および「執筆要領」の改訂を承認した(別掲1および2)。
5. 表彰委員会による学会大会での研究発表賞(口頭発表賞およびポスター発表賞)の創設を承認した。

II. 編集委員会報告

2007年10月6日に岡山理科大学において開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 電子メールによる原稿校閲の導入に伴う「投稿規定」および「執筆要領」の改訂(案)について審議した。
2. PDF版別刷(植生学会誌第24巻1号分から導入)の利用規定や著作権等について審議した。

III. 企画委員会報告

2007年10月6日に岡山理科大学において開催した。審議・報告事項は以下のとおり。

1. シンポジウムを2008年1月12日に神戸大学百年記念館で開催する。テーマは「望ましい自然再生を求めて—植生学のノウハウを使いこなす—」。
2. 群落談話会の開催について審議し、日本生態学会第55回大会(2008年3月, 福岡)の自由集会での開催を決めた。

別掲1. 植生学会誌投稿規定改訂条項

旧(下線は削除)	新(下線は追加・改訂箇所)
<p>——<前略>——</p> <p>2. 原稿の種類は、原著論文、短報、総説、解説・意見、資料・報告、その他(書評、学会記事など)とする。このうち、解説・意見、資料・報告、およびその他の一部については、原則として植生情報に掲載する。ただし、編集委員会が植生学会誌への掲載を認めたものについてはこの限りではない。</p> <p>——<中略>——</p> <p>6. 原稿は本文、図、表のすべてを3部(コピー可)作成して送付しなければならない。原稿には必要事項を記入した最新の投稿原稿送付状を添付すること。</p> <p>——<中略>——</p> <p>付則1. この規定は2005年10月9日より適用する(2005年10月8日改訂)。</p> <p>——<後略>——</p>	<p>——<前略>——</p> <p>2. 原稿の種類は、原著論文、短報、総説、解説・意見、資料・報告、その他(書評、学会記事など)とする。このうち、解説・意見、資料・報告については、原則として植生情報に掲載する。ただし、編集委員会が植生学会誌への掲載を認めたものについてはこの限りではない。<u>原稿種別の基準等については学会ホームページの案内を参照すること。</u></p> <p>——<中略>——</p> <p>6. 原稿は次のAまたはBの何れかの方法で作成して送付しなければならない。原稿には必要事項を記入した最新の投稿原稿送付状を添付すること。</p> <p>A. <u>本文と図表、投稿原稿送付状を1つのPDFファイルにまとめて電子メール(原則として3MB以内)で送付する。メールで投稿する際の件名およびファイル名は「SVS-○○○」(○○は投稿者のローマ字姓)とする。</u></p> <p>B. <u>本文、図表の全てを3部(コピー可)作成して、投稿原稿送付状とともに郵送する。</u></p> <p>——<中略>——</p> <p>付則1. この規定は<u>2007年10月7日</u>より適用する(<u>2007年10月6日</u>改訂)。</p> <p>——<後略>——</p>

IV. 表彰委員会報告

2007年10月6日に岡山理科大学において開催した。審議事項は以下のとおり。

1. 学会大会での研究発表賞(口頭発表賞およびポスター発表賞)の創設(案)について審議した。
2. 学会賞の候補者推薦について審議した。

V. 2007年度総会報告

2007年10月7日に岡山理科大学において2007年度総会が開催され、以下の事項が報告または承認された。

- A. 報告事項
1. 学会事務局

2007年10月5日現在の会員数(正会員558名, 団体会員14団体, 賛助会員1団体)が報告された。
 2. 各種委員会

上記I. -IV. の運営委員会および各種委員会の審議・報告事項が報告された。

B. 承認事項

1. 植生学会2006年度収支決算の一部に誤りがあったため、総会での承認手続きは行われなかった。総会では、決算の修正結果を植生学会誌第24巻2号に公表する段取り*で了承を得た。

*本号の発行期日までに決算の修正と会計監査が終わらなかったため、本報告での2006年度収支決算および2007年度収支予算の掲載を見送った。
2. 植生学会会則の第10条第4項および第5項の改定(別掲3)を承認した。

別掲2. 植生学会誌執筆要領改訂条項

旧 (下線は削除)	新 (下線は追加・改訂箇所)
<p>1. 原著論文, 短報, 総説は和文または英文とし, 次の順序で記述する.</p> <p>A. 和文原稿: ①表題, ②著者名, ③所属, ④英文表題, ⑤ローマ字著者名, ⑥英文所属とアドレス, ⑦欄外見出し (30字以内), ⑧ Abstract, ⑨ Key words (アルファベット順に5語以内), ⑩本文, ⑪摘要, ⑫引用文献.</p> <p>B. 英文原稿: ①表題, ②著者名, ③所属とアドレス, ④欄外見出し (約12語以内), ⑤ Abstract, ⑥ Key words (アルファベット順に5語以内), ⑦本文, ⑧引用文献, ⑨要約 (和文の表題・著者名・所属, 和文要旨).</p>	<p>1. 原著論文, 短報, 総説は和文または英文とし, 次の順序で記述する.</p> <p>A. 和文原稿: (1)表題, (2)著者名, (3)所属, (4)英文表題, (5)ローマ字著者名, (6)英文所属, (7)欄外見出し (30字以内), (8) Abstract, (9) Key words (アルファベット順に5語以内), (10)本文, (11)摘要, (12)引用文献.</p> <p>B. 英文原稿: (1)表題, (2)著者名, (3)所属, (4)欄外見出し (約12語以内), (5) Abstract, (6) Key words (アルファベット順に5語以内), (7)本文, (8)引用文献, (9)要約 (和文の表題・著者名・所属, 和文要旨).</p>
—<中略>—	—<中略>—
<p>6. 和文原稿は, A4版の白紙に上下各3cm, 左右各2.5cm程度をあげ, 34文字, 30行を1ページとする. なお, 下部余白中央にページ番号を振ること.</p> <p>7. 英文原稿は, A4版の白紙に上下各3cm, 左右各2.5cm程度をあげ, 約65文字, 25行を1ページとする. なお, 下部余白中央にページ番号を振ること.</p>	<p>6. 和文原稿は, A4版の白紙に上下各3cm, 左右各2.5cm程度をあげ, 34文字, 30行を1ページとする. なお, <u>各ページ左余白に行番号を打ち</u>, 下部余白中央にページ番号を振ること.</p> <p>7. 英文原稿は, A4版の白紙に上下各3cm, 左右各2.5cm程度をあげ, 約65文字, 25行を1ページとする. なお, <u>各ページ左余白に行番号を打ち</u>, 下部余白中央にページ番号を振ること.</p>
—<中略>—	—<中略>—
<p>11. 原著論文は刷り上がり12ページまで, 短報, 資料・報告は6ページまで, 総説は16ページまで, 解説・意見は8ページまでを無料とし, 超過分は著者の負担で掲載することができる. 超過ページ代は1ページにつき9,000円とする.</p>	<p>11. <u>上記以外の体裁については, 最新号の書式または学会ホームページの「原稿の表記に関する細則」を参照すること.</u></p>
<p>12. 図, 表, 写真等の大きさは原則として自由とするが, 投稿者の責任において作成し, 挿入希望位置を本文原稿の右側余白に指定すること (最終原稿では朱書き).</p>	<p>12. 原著論文は刷り上がり12ページまで, 短報, 資料・報告は6ページまで, 総説は16ページまで, 解説・意見は8ページまでを無料とし, 超過分は著者の負担で掲載することができる. 超過ページ代は1ページにつき9,000円とする.</p>
<p>13. 図, 表, 写真等のカラー印刷は所定の料金とし, 著者の負担とする.</p>	<p>13. 図, 表等は1枚ずつ別紙に書き, 著者の責任において作製すること. <u>また, 各図表の挿入希望位置を本文原稿の右側余白に指定すること (最終原稿では朱書き).</u></p>
<p>14. 図の説明は別紙にまとめて書き, その紙には本文に続くページ数を打っておくこと.</p>	<p>14. 図, 表, 写真等のカラー印刷は所定の料金とし, 著者の負担とする.</p>
<p>15. 表の説明は表の上部に書くものとする.</p>	<p>15. <u>図の説明は別紙にまとめて, 和文原稿の場合は引用文献に続くページ数を, 英文原稿の場合は要約に続くページ数を振ること.</u></p>
<p>16. 1ページに収まらない表は, 著者の負担で折り込みとすることができる.</p>	<p>16. 表の説明は表の上部に書くものとする.</p>
<p>17. 最終原稿および原図, 写真等は, 原稿受理後に編集委員会の指示に従って送付すること. その際に本文, 表, 図の説明等を保存したフロッピーディスク, CD, MO等 (アプリケーションの形式だけでなくテキスト形式のものも入れること) を添えること. コンピュータで作成した図やデジタル化された写真がある場合は, それも入れること.</p>	<p>17. 1ページに収まらない表は, 著者の負担で折り込みとすることができる.</p>
<p>18. <u>写真は原則的にプリントした陽画とするが, ポジのスライドフィルムやデジタル化されたものがある場合は, 最終原稿提出時にそれも添付すること.</u></p>	<p>18. 最終原稿および原図, 写真等は, 原稿受理後に編集委員会の指示に従って送付すること. その際にそれらを保存したフロッピーディスク, CD等 (アプリケーションの形式だけでなくテキスト形式のものも入れること) を添えること.</p>
—<中略>—	—<中略>—
<p>20. 別刷は1論文につき50部を無料で受け取ることができる. これを超える別刷は実費を著者が負担して作成する. 別刷の必要部数 (無料分を含む) を50部単位で投稿原稿送付状に明記する.</p>	<p>20. 別刷は1論文につき50部を無料で受け取ることができる. これを超える別刷およびPDF版の別刷は実費を著者が負担して作製する. 別刷の必要部数 (無料分を含む50部単位) とPDF版別刷の要・不要を投稿原稿送付状に明記すること.</p>

付則1. この要領は2005年10月9日以降に投稿された原稿に適用する(2005年10月8日改訂).

——<後略>——

付則1. この要領は2007年10月7日以降に投稿された原稿に適用する(2007年10月6日改訂).

——<後略>——

別掲3. 植生学会会則改定条項

旧(下線は削除)	新(下線は追加・改定箇所)
——<前略>——	——<前略>——
第10条 役員の選任方法ならびに任期は次のとおりとする。	第10条 役員の選任方法ならびに任期は次のとおりとする。
——<中略>——	——<中略>——
4) 幹事長, 編集委員長および専門委員会委員長は <u>全国選出</u> 運営委員の中から会長が選任し, 運営委員会に諮って委嘱する。	4) 編集委員長および専門委員会委員長は運営委員の中から会長が選任し, 運営委員会に諮って委嘱する。
5) 庶務幹事, 編集幹事, 会計幹事および会計監事は会長が運営委員会に諮って委嘱する。	5) 幹事長, 庶務幹事, 編集幹事, 会計幹事および会計監事は <u>会員の中から会長が選任</u> し, 運営委員会に諮って委嘱する。
——<後略>——	——<後略>——

C. その他

第13回大会開催地となる東京農工大学の福嶋 司氏より, 多数会員の参加が要請された。なお開催日は2008年10月11日から13日(一般講演は12日)。

VI. 学会賞

2007年度の学会賞の受賞者は以下のとおり(敬称略)。表彰は2007年10月7日の総会・学会賞授与式において行われ, 菊池多賀夫会長から表彰状と記念品が贈呈された。

学会賞 福嶋 司(東京農工大学大学院共生科学技術研究院)

VII. 植生学会第12回大会報告

植生学会第12回大会(大会会長: 波田善夫)が, 2007年10月6日から8日にかけて岡山理科大学において開催された(下記日程)。一般講演では口頭発表20題, ポスター発表25題の発表が行われた。また, 特別セッションとして3題の発表が行われた。参加者は予約申込者143名, 当日参加者32名の計175名であった。

10月6日: 表彰委員会, 企画委員会, 編集委員会, 運営委員会

10月7日: 特別セッション, 一般講演(口頭発表・ポスター発表), 総会・学会賞授与式, 懇親会

10月8日: エクスカーション(岡山県真庭郡新庄村毛無山)一般講演および特別セッションは以下のとおりであった。

<特別セッション>

岡山県における湿原の保護と保全の取り組み

S1 岡山県の湿地に移入された外来食虫植物の現状。片岡博行(津黒いきものふれあいの里)

S2 植生構造を破壊して移植した湿原の移植後の植生変遷。西本 孝(岡山県自然保護センター)

S3 国指定天然記念物鯉ヶ窪湿原の保護保全マニュアル。波田善夫(岡山理科大・総情・生地)

<口頭発表>

A1 日本の半陰地1年草群落について(続報)。村上雄秀(国際生態学センター)

A2 八幡平におけるオオシラビソ林の分布パターン—亜高山性針葉樹林の占有度合が異なる地域間の比較—。若松伸彦(東京農大・地域環境)・菊池多賀夫・大野啓一(横浜国大・院・環境情報)

A3 韓国のケヤキ林およびヤチダモ溪畔林の群落体系。大野啓一(横浜国大・院・環境情報)・宋鍾碩(韓国・安東大)

A4 東日本におけるイヌブナの分布とこれを規定する環境要因について。原 正利(千葉県立中央博)

A5 大隅半島稲尾岳におけるシイ類の垂直分布について。小林悟志(新領域融合研究センター)

A6 箕面山の森林植生—25年間の組成変化。山崎俊哉・丸井英幹(大阪市立自然史博)・梅原 徹(NPO大阪自然史センター)

A7 超閉鎖性湾・大村湾(長崎県)の沿岸と島嶼部の植物相と植生。中西弘樹・小林 業(長崎大・教育)・中西こずえ(長崎大・環境科学)

A8 中国黄土高原の小流域における植生の空間構造。永松大(鳥取大・地域)・山中典和(鳥取大・乾地研)・杜盛・侯慶春(中国科学院)・張文輝(中国・西北農林科技大)

A9 オブジェクト指向分類による植生界抽出と図化精度の評価。鎌形哲稔・原慶太郎(東京情報大・院・総合情報)

A10 万葉集の植生学的研究。服部 保(兵庫県立大・自然環境科学研)・橋本佳延・南山典子(兵庫県博)

B1 長野県のブナ造林木に認められた晩霜害。小山泰弘(長野県林業総合センター)

B2 風倒木着生個体から推定したカヤランの個体群動態。松村俊和(兵庫県・洲本農林水産振興事務所)

B3 水稲用除草剤が絶滅危惧植物に及ぼす影響の日韓比較。池田浩明・相田美喜・林 成振(農業環境技術研)

- B4 マングローブ林の立地における葉層の役割と林床の土砂移動. 斎藤綾子 (東北学院大・院)・宮城豊彦 (東北学院大)・V. N. NAM (Faculty of Forestry, Nong Lam Uni.V.)・H. D. HOAN・C. H. BINH and P. V. TRUNG (Can Gio Mangrove Protection Forest Management Board)
- B5 マングローブ林の津波減衰効果に関する定量的な評価例, 2004年インド洋大津波の調査を総括して. 宮城豊彦 (東北学院大・地域構想)・柳沢英明 (東北大・院・工)・馬場繁幸 (琉大・農・ISME), 今村文彦 (東北大・工)・C. Tanavud (Prince of Songkla Univ., Thailand), M. Affar (Shakuala Univ., Indonesia)
- B6 大出水は大攪乱かーカワラハハコ群落存続の可否を流から解くー. 浅見佳世 (㈱里と水辺研究所)
- B7 茨城県小貝川におけるアレチウリ発芽サイトの解明. 川田清和・池田浩明 (農業環境技術研)
- B8 標津川蛇行復元予定区域の植物相・植生の現状把握と復元時に必要な対策. 堀端純平 (北大・院・農)・富士田裕子 (北大・北方生物圏フィールド科学センター植物園)・三木昇 (㈱エコニクス)・東 隆行 (北大・北方生物圏フィールド科学センター植物園)・藤田 玲 (草花堂)
- B9 都市域の里山孤立林に侵入した緑化・園芸樹木の種組成と種多様性. 石田弘明 (兵庫県立大・自然環境科学研)・戸井可名子 (㈱緑生研究所)・武田義明 (神戸大・発達科学)・服部 保 (兵庫県立大・自然環境科学研)
- B10 南部アフリカレソト周辺の生態地理景観. 沖津 進 (千葉大・院・園芸)
- <ポスター発表>
- P1 講演取り消し
- P2 北アルプス八方尾根の蛇紋岩地における微地形による土壌ー植生系の変化. 松江大輔 (東京農大・院)・武生雅明・中村幸人 (東京農大・地域環境)
- P3 南アルプス仙水峠の岩塊地に分布する植物群落とその立地環境. 池田史枝・大野啓一 (横浜国大・院・環境情報)
- P4 八ヶ岳演習林内の湿地林における植生分布と地下水位. 菊地亜矢子・上條隆志・清野達之・中村 徹 (筑波大・生命環境)
- P5 都市域と郊外域における孤立した照葉樹林の約30年間に於ける種数・種組成の変化. 窪山恵美・藤原一繪 (横浜国大・院・環境情報)
- P6 伊豆諸島御蔵島におけるスダジイ巨樹の着生植物の種多様性. 仲山真希子 (筑波大・院・環境科学)・上條隆志 (筑波大・生命環境)・平田晶子 (筑波大・院・生命環境)
- P7 岡山県前島の植生ー地形属性と植生の関係ー. 松岡憲吾 (岡山理科大・院・総情・生地)・財津一行 (岡山理科大・院・総情・生地)・太田 謙 (岡山理科大・院・総情・環境)・波田善夫 (岡山理科大・院・総情・生地)
- P8 岐阜市近郊のコナラ二次林における植生管理と下層植生の関連について. 肥後睦輝・寺本匡寛 (岐阜大・地域)
- P9 兵庫県慶野松原における人間活動と植生の関係. 三浦弘之 (兵庫県立淡路景観園芸学校)・藤原道郎・澤田佳宏・大藪崇司・山本 聡・美濃伸之・一ノ瀬友博 (兵庫県立大・自然環境科学研)
- P10 微地形条件の異なる植栽林下層におけるシダ植物の種数および株数比較. 黒田有寿茂・澤田佳宏・服部 保 (兵庫県立大・自然環境科学研)
- P11 二次林における当年生コナラ芽生えの生残. 中田将人 (岡山理科大・院・総情・生地)・波田善夫 (岡山理科大・院・総情・生地)
- P12 山梨県甘利山におけるレンゲツツジ *Rhododendron japonicum* の開花と萌芽の生残に及ぼす要因. 久保満佐子・長池卓男 (山梨県森林総合研究所)
- P13 養分ターンオーバーは降水涵養湿原の植生分布を説明できるか? 酒井絢也 (北大・院・環境科学)・植村 滋 (北大・フィールド科学センター)・矢部和夫 (札幌市大・デザイン)
- P14 高知県大岐浜林の植生変遷. 森定 伸・野崎達也・小川みどり (㈱ウエスコ)
- P15 静岡県遠州灘海岸におけるケカモノハシとピロードテンツキの分布に及ぼす堆砂の影響. 岡 浩平・吉崎真司・小堀洋美 (武蔵工大・院・環境情報)
- P16 木曾川下流域ケレップ水制群周辺における河床の複断面化と植生発達. 比嘉基紀・師井茂倫・大野啓一 (横浜国大・院・環境情報)
- P17 多摩川河川敷における一年生草本植物群落の組成と配分. 大和 量 (東京農大・院・林学)・中村幸人 (東京農大・地域環境)
- P18 多摩川中流域の農業用水路における水生植物の分布と生育環境. 鈴木晴美・吉川正人・星野義延 (東京農工大・農)
- P19 茨城県菅生沼のオギ二次草原への火入れ影響. 澤田みづ子 (筑波大・院・環境科学)・小幡和男 (茨城県自然博)・上條隆志・中村 徹 (筑波大・院・環境科学)
- P20 放棄草地における種構成のスケール依存的動態と空間解析. 安田泰輔・中野隆志・北原正彦・杉田幹夫 (山梨県環境科学研)
- P21 モンゴル半乾燥草原における放牧停止が植生の構造に与える影響. 浦野忠朗 (筑波大・院・生命環境)・川田清和 (農業環境技術研)・李勝功・杉田倫明・鞠子 茂 (筑波大・生命環境)
- P22 三宅島2000年噴火後のオオシマカンスゲとハチジョウススキの増加様式. 川越みなみ・上條隆志 (筑波大・生命環境)
- P23 侵入種の分布量を定める要因は何か?ートウネズミモチを例としてー. 伊藤千恵・藤原一繪 (横浜国大・院・環境情報)
- P24 高知県の中山間地における帰化植物の生育立地ーいの町成山地区の事例ー. 兼田侑也 (高知大・院・理)・松本健吾・石川慎吾・三宅 尚 (高知大・理)
- P25 カワウ生息地における植生景観の変遷. 前迫ゆり (大阪産業大・人間環境)・金子有子 (琵琶湖環境科学研究センター)
- P26 里山の森林群落とアリ類の関係. 山尾 僚 (岡山理科大・院・総情・生地)・西本 孝 (岡山県自然保護センター)・波田善夫 (岡山理科大・院・総情・生地)